

平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜について

1. 学力検査結果の概要

本概要は、平成31年3月6日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②何が問われているかを正確に読み取り、複数の知識・技能を結び付け、筋道を立てて考えや理由を説明する力に課題がある。

【国語】

漢字・文法など基礎的・基本的な学力は身につけており、資料活用型の問題にも対応できていた。一方で、全体の文脈を押さえて思考すれば正解できるのに、傍線部周辺のみを切り取って考えようとしたがために不正解となっていると思われるケースが、現代文、古文を問わず全体の傾向としてみられた。また、解答の条件に合わせられず、減点される記述の解答も目立った。基本的な知識の確実な定着と同時に、筆者の言いたいことをきちんと押さえながら文章を読み、俯瞰的な全体像を構築していく力、出題意図や条件を踏まえて適切に記述する力の育成が望まれる。

【社会】

昨年に続き、地理・歴史・公民的分野の学習内容を関連付けて思考・判断・表現する力をみる問題や、複数の資料を読み取り記号で答えたり、決められた字数内で表現する問題を多く出題した。基礎的・基本的な問題の正答率は比較的高く、基礎的・基本的な知識はある程度身につけている一方で、資料の読み取りが苦手な受検生にとっては難しさを感じる問題も多かったと思われる。初出の資料を読み取り記述する問題では、正答率は高くなかったものの無答が少なかったことから、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢もうかがえた。

【数学】

問題を解く上で読解力を必要とする問題があり、時間が足りなかった受検生もいたと思われる。基本的な問題に関しては正答率が高く概ね良好であったが、「素因数分解」といった用語の意味理解が曖昧な面がうかがえた。また、身近な事柄や図形について関数を利用して処理したり、数学的な表現を用いて説明したりする力は十分ではなく、特に図形に関する問題では無答率が高かった。意味理解をともなった知識・技能を習得した上で、それらを活用する力や必要な情報を整理し、数学的に考察し表現する力の育成が望まれる。

【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。一方、計算や記述、グラフの作図など、思考力・判断力・表現力を必要とする問題の正答率は低かった。また、無答率は昨年と同程度であった。自然の事物・現象について主体的に探究し基本的なことを正確に理解するとともに、文章やデータなどを読み取る力や、観察・実験の結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力、実生活や他教科で身につけた知識・技能を活用する力の育成が望まれる。

【英語】

様々な場面で英語を使うことが想定されており、複数の情報を考え合わせて答えを出す経験の少ない受検生にとっては、時間内に的確な解答を作ることが難しかったと思われる。特に英語の表現力を重視する問題では、単に定型表現を答えるのではなく、自分の考えを英語にしなければならぬため、豊かな発想力や想像力も求められた。英語の知識を身に付けることはもちろん必要だが、「聞くこと」と「書くこと」、「読むこと」と「書くこと」など、4技能の中から必要なものを統合して活用する力の育成が急務である。